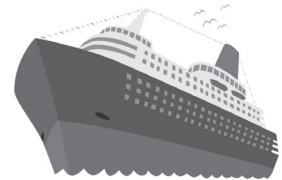


Statistical Room



京都の海の玄関口 京都舞鶴港

昨年、京都舞鶴港にクルーズ客船が17回寄港していることや、客室2千人規模の大型クルーズ客船が寄港していることを皆さんご存知ですか。(今年はクルーズ客船36回寄港予定)

湾口が狭く波が穏やかで古くから天然の良港として利用されており、現在では関西の日本海側の貿易拠点として重要な役割を果たしている京都舞鶴港についてみてみましょう。

京都舞鶴港の取扱貨物量をみると、平成28年は1083万トン(7年連続で1000万トン超)で、10年前の平成18年と比べると2割増増加しています。そのうち輸入の取扱貨物量は10年前と比べると、約2倍になり、移出、移入を超え、全体に占める割合も16.9ポイント高くなっています。

(図1)

平成28年の国別の内訳をみると、輸出は韓国の13万トン(57.9%)、輸入はオーストラリアの302万トン(67.5%)が最も多くなっています。

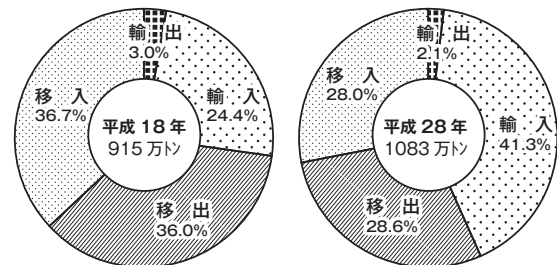
(図2)

また、平成28年の取扱品種の内訳をみると、輸出は完成自動車の7万トン(29.8%)、輸入は石炭の415万トン(92.9%)が最も多くなっています。移出、移入は、いずれも輸送用車両(フェリー貨物)が移出241万トン(77.9%)、移入250万トン(82.6%)と最も多くなっています。

(図3)

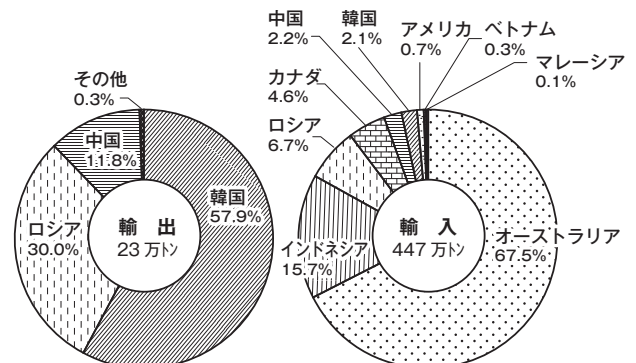
京都舞鶴港は、日本海側拠点港(国際海外コンテナ、外航クルーズ等)に選定されているところですが、京都縦貫自動車道が全線開通し、京阪神との時間的距離が一層近くなるなど、関西の日本海側の玄関港としての機能が高まったことから、さらに京都府の経済・観光交流の拡大発展への寄与が期待されます。

図1 京都舞鶴港 取扱貨物量(平成18年・28年)



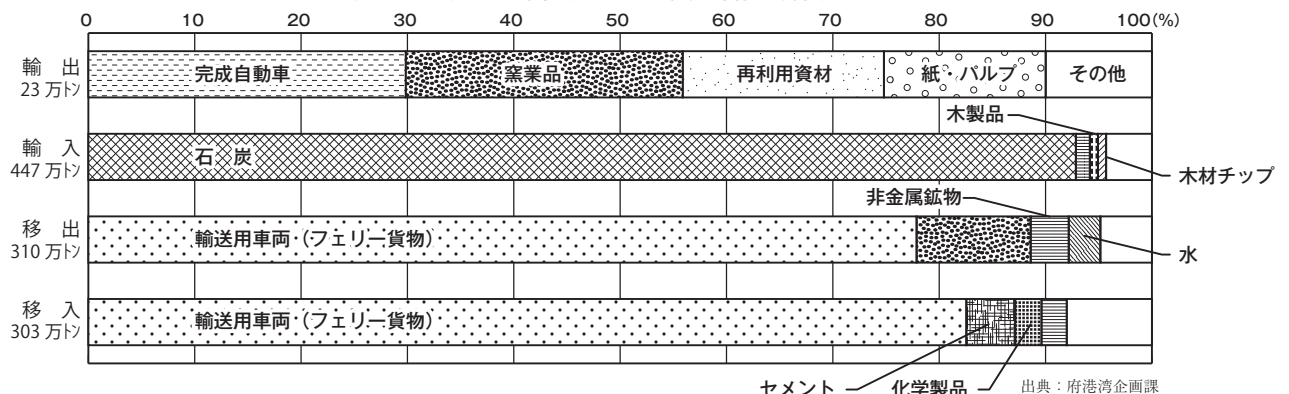
※ 移出：国内の他の地方に物資を送り出すこと
移入：国内のある地方から物資を運び入れること
出典：府港湾企画課

図2 平成28年 京都舞鶴港 外国貿易取扱貨物国別割合(輸出・輸入)



出典：府港湾企画課

図3 平成28年 京都舞鶴港 取扱貨物品種別割合



出典：府港湾企画課